

R7.4.4 1 学期始業式

皆さん、いよいよ令和7年度が始まりました。

2年生は先輩になり、3年生は最上級生となり、活躍の場面が広がります。

校舎の改修工事では引き続き不便をかけ申し訳ありませんが、少しずつ新しくなっていく教室棟、7月ごろをめどにトイレが新しくなると思います。楽しみにしててください。

今年に入っても災害の報道が多く、国内での山林火災にもお見舞い申し上げます。国外に目を向けるとミャンマーの地震被害に心痛みます。また、直近では国際経済の問題も他国の話とは言えなくなっています。正に、予測が難しい時代を迎えていますが、昨年度の2学期終業式でもお話ししたと思いますが、まずは自分事として考えていくことだと思います。

そして、こうして新年度を迎えることが出来る私たちは、美須々で学ぶことが出来る喜びを感じながら、頑張っていきたいものです。

2、3年生、それぞれ取り組む内容は異なると思いますが、やはり、進路実現、将来の進路に向かって準備を進めて欲しいと思います。

離任式の時の皆さんへのメッセージに、自分を過小評価しない、というお言葉があったと思いますが、自分の可能性を狭めずに、入学当初の希望をこの機会にもう一度思い起こして、その実現に向かって進んでいって欲しいと思います。

「やれば出来る」、ティモンディ 高岸宏行（たかぎしひろゆき）さんの言葉はシンプルですが、やる気にさせてくれる言葉です。

やればできる、そして、やるのは自分です。自分次第、誰かのせいで、できる、できないではなく、自分がどうやるか、結局、これに尽きます。

一月の放送での始業式でも述べましたが、人生これ一箇、活殺全て我にあり、です。自分の人生です。生かすも、そうでないのも自分次第です。

そのためには、今までの自分を、更新していく、いつも最新の自分を目指して、1日ごとに少しでも歩みが進む日々だとよいのではないのでしょうか。ただ、必ずしも前進ばかりではないかもしれません。時には、挫折や戸惑いの場面も出てくることでしょう。

その時には、友人や、先生方、ご家族に相談してください。そこから対話が生まれ、自分では気が付かなかった解決策や、気持ちが落ち着いたり、安心することにつながるのではないかと思います。

美須々には、そういう温かい仲間がたくさんいますし、お互いに支える仲間であってほしいと思います。

さて、新年度に関して、私自身の話を少しします。

小学校時代、私は父親の仕事の転勤に伴い、転校を4回、都合5つの小学校で過ごしま

した。長野県内だけでしたが、最初は長野市の小学校に入学し、その後飯田市、そしてまた長野市、伊那市という具合でした。

小学校入学後、すぐに飯田市へ転校したのですが、その時は、2階建ての家に住めるということで、どんな家か絵を描いては楽しみにしていたような誠に幼稚な考えでした。

その後、3年生から4年生と進級するにつれて、徐々に友人との関係も深まり、友人と別れなければならない転校は辛いものとなっていきました。

4年生の時に、東京への転勤話があり、今は亡き父親は、家庭にその話を持ち帰ってきましたが、私は友人との別れが耐えられずに、どうしても転校は嫌だと訴え、そのせいかはわかりませんが、東京への転勤、転校はなくなりました。

今にして思えば、どうして、あの時東京へ行くことを受け入れなかったのか、小学校時代に東京での経験があれば、もっと視野が広がっていたのに、と後の大学時代でも思いましたし、その後教員になってからもそういうことを言ってくれた先輩の先生もいました。大人になってから思うのは、せっかくのチャンスを逃したという気持ちです。

こういう経験があるものですから、新年度になると、いつも思い出されるのが、転校初日の風景や心情です。別室で、一人で待たされるわけですね。その後、担任の先生が来て、クラスに連れて行ってくれるわけですが、あの一人で待っている時の緊張感、ドキドキ感、クラスにうまくなじめるかな、どんな人がいるのかな、という不安を何度も経験しました。

そういう幼少体験のせいか、新しい環境を前にしてでは、今も緊張するのですが、同時に、新しい環境に入ってきてくれる人の気持ちも、なんとなく想像ができて、少しでも早く慣れて馴染んでもらえればいいな、という気持ちになります。

新たな環境に馴染むまでの経験は、子どもながらに嬉しいこともあまり思い出したくないことも様々なことがありますが、時間の経過と共に転校生である私に皆さん仲良くしてくれて、いまだに転校して去っていった自分を覚えてくれている人もいたりして、一つの学校では得られなかった貴重な経験をさせてもらったという気持ちです。

そして、どの学校でも、先生方は転校生である私をほんとに親身になって支えてくれたと今も感謝の思いです。そしてその先生方の姿が、自分の職業選択に大きな影響を与えてくれたと思っています。

新年度、新しい講座での出会いや、明日入学式の新入生との出会いもあるでしょう。クラス内でも新たな友人関係もできるかもしれません。お互いの気持ちをおもんぱかりながら、美須々の仲間の輪を、今年度も広げていってください。

皆さんにとって新しい豊かな人間関係を構築しながら、納得の歩みとなる、令和7年度を期待して、始業式の挨拶とします。